

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年6月17日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.22】

権力謀略論に反する」とJR総連副委員長が自己批判！？

JR総連と革マル派の「権力謀略論」に関しては、本情報で繰り返し紹介してきた革マル派「綾瀬アジト」からの押収資料を基に作成したとされる警察資料に、前号で紹介した警察庁広報誌「焦点」にも記載のある「JR列車防護無線盗難事件」について、非常に興味深い記載がある（宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」p.63）

また、平成8年5月開催の「JR総連内革マル派幹部と革マル派弁護士との合同会議」では、JR総連の柴田光治委員長（当時は書記長）が、連合第8回中央委員会において「防護無線の盗難と列車妨害事件」について、「内部に詳しい者が関係している。分割・民営化反対を叫んでいる者と無関係ではないし、その者たちの犯行ではないか...」などと暗に「国労が犯人」であるかのような発言をしたことに関し、革マル派指導部（弁護士）は、「この発言は「権力謀略論」に反する」と批判し、この柴田発言に関して、JR総連副委員長の小谷昌幸を自己批判させている。

この資料によれば、革マル派が「権力謀略論」を組織的に徹底させていることになるが、JR総連関係者は、革マル派の組織方針を忠実に守り、いかに荒唐無稽であろうと、襲撃事件は「権力の謀略だ」と言い張っているのだろうか。なお、JR総連委員長の柴田光治氏とは、本情報（No.15）で記載した「宇和」なる秘密黨員名を持つとみられる人物、副委員長の小谷昌幸氏とは、No.16に記載した、1980年に鉄道関係労働者初の内ゲバ事件で重傷を負った人物だ。両名ともに、革マル派である可能性が濃厚である。

91年5月の内ゲバでは中核派が逮捕される！それでも...

前々号（No.20）の通り、JR東労組千葉委員長は、内ゲバではない根拠について「逮捕された形跡がない」と証言したが、JR総連関係者への内ゲバ（No.16参照）のうち、東労組水戸地本組織部長・湯原正宣氏への襲撃事件（1991年5月1日）では、中核派非公然活動家が逮捕された。中核派機関紙「前進」（2072号、2002年10月7日）に次の記事がある（宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』p.25参照」。

片山武夫同志が出獄 12年間の獄中闘争に勝利

9月23日、91年5・1戦闘戦士、片山武夫同志が12年間の長期獄中闘争に勝利して横浜刑務所からの出獄をかちとった。片山同志は、91年5月1日、ファシスト労働運動を進めるJR総連幹部・カクマル湯原せん滅戦闘を、警察権力の銃撃にもひるまず戦いぬいた革命的戦士である。- (中略) - 日帝権力は、K=K連合（警察=カクマル連合）の庇護のもとにいた湯原を救えとばかりに、片山同志に違法な銃撃を加えて右顔面と左胸に銃弾が貫通する重傷を負わせた。だが、片山同志は不屈の闘魂でこの殺人的弾圧をはね返して生きぬき、権力の不法を真っ向から弾劾する裁判闘争と完黙・非転向の獄中闘争を闘いぬいた。- (後略) -

当時の新聞各紙は、警察が銃撃のうへ、中核派非公然活動家の片山氏を逮捕したと報じた。犯人逮捕は、JR総連や革マル派にとって大きな誤算だろう。千葉氏が「犯人が捕まったというのは、非常にレアなケースを除いてはない」と証言したのは、この事件を指しているようだ。この事件に対する彼らの見解は非常に興味深く、次号で検証を深めたい。

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>